

新常盤研究会 第二回研究会 メモ

日時：2007.03.03（土）10:00～13:00

場所：丸ビル 10F 一ツ橋会議室

出席者：常盤先生、片平先生、古川先生

有馬(CATWALK)、池田(アサヒビール)、今田(日経 BP)、臼井(臼井農産)、大下(レノゴロー)、岡(オリエンタルランド)、宇野(NTTドコモ)、古城(ホンダ)、砂田(朝日新聞)、瀬野(東急総合研究所)、中山(オリエンタルランド)、平井(マネジメント)、松崎(ノリツ)、松永(NEC)、松山(日本ものづくり学会)、丸山

【関心事：常盤先生】

多様性：ダイバーシティ／差異、相違、雑多

個の時代、尊厳：多様な価値観、生き方

多様な人材 → 企業という集団 → 力

北米20年前：DM（ダイバーシティ・マネージメント）

北米はサラダ・ボウル ←如何にうまく混ぜるか、おいしいサラダにするか

日本はスープ ←どこをとっても同じ味

ダイバーシティ＝企業のかかれ目、活力にしていこう

スザンヌ・バーガー（MIT 教授）：多様性こそ企業の活力

色々な取り組み方～企業の独自性、どう組み合わせるか

◎イメージを持つこと…大切なこと

メタファー（metaphor）：比喻、例え話 → これでは説明できない

頭の中に描く

例えば“革新”とは？：さなぎ→蝶々に変身すること。これ以上説明できない。

経典についても、例え話の集まり

「モノゴトを理屈で考える」のではなく、「心で何か来る」といったことが大切

ダイバーシティ＝『石垣』

色々な石垣がある。

大きさ：大中小／石の種類：割り石、野面石、ぐり石、…／積み方：布積み、乱積み

人を石に置き換え

DM というのは、石工職人の棟梁

石、積み方、ふぞろいの石、それぞれの役割、ピッタリ行くと

→石がそこに座ってくれる。置いた石一つ一つに主張がある。～「安定感＋主張」

隙間：組合せの中に遊びがある。外からの力を吸収する。

個を主張する時代の中で、こういうことがますます重要になる。

組織の知とするか

多様な価値観／生き方（勝手ではなく）←どう評価するか

◎個の独立性 ⇔ 帰属のバランス

企業活動：ビジネスの中でどう生かすか：グローバリゼーション→ダイバーシティ
正解が一つある訳ではない。常に正解を求めてチャレンジすることが大事。

多元連立方程式。どう組み合わせるかということ。

例えば、コンピュータ業界

アップル、デル、ソニー、…

それぞれ違う取り組み方。これこそグローバリゼーション。

ダイバーシティ：多様性 → ハイブリッド：混成＝今までにない価値を生み出す
～今後のキーワード

職場により必要な事業がある。次元が異なる多様性（種々雑多ではない）。

◎個の中身が問われる、そういう時代

ダイバージ（*diverge*）：発散する

コンバージ（*converge*）：収斂する

◎求心力と遠心力のバランス

企業＝人の営み

異質で多様な人間

上手に石を組む＝個を伸ばす

◎人は信じられないくらい力を発揮する

樹研とか、西島とか、すごいポテンシャル（生かしていないことが多い、気づかないといけない）

～中から湧いてくるエネルギー

【国家の品格：今田さん／砂田さん】

配布資料参照

・分からない人には分からないが、賢い人には分かる

・手仕事の美しさ：「手仕事の日本」（柳宗悦）

日本人：職人が作るもの、そのものに美がある

“自分の仕事が美しい”と思っているか？

・オンリーワン（魅力的だが、しがみついているとダメ。マーケットは常に変化）

→ロンリーワン（一人よがり）

BMW 社長の話：「我が社は誰にでも買ってもらう訳ではない。うちのクルマを評価してくれる人、この人になら買ってもらう。万人向け＝特徴がないこと」

個性＝クルマを通して、何を主張できるかどうか

・媚びない／ぶれない／飽きない

“跪く”、畏怖の念、自分ひとりでは生きていけない

相手に耳を傾ける。自分の存在は相手に支えられている

・「自分は生徒に教えられている」（滝乃川学園：石井筆子）

教育＝共育

・同じ材料でも、心豊かに人が作ると品格のあるモノができる

人としての人格→品格を生む

モチーフ、美しさ、使い込んでいる美、用の美

品格 ⇔ 卑怯

・「人を動かす」～藤原さんのような主張の仕方、隠されたメッセージ

◎ “この本がどうして人を惹きつけるのか” 読み取ることの大切さ

企業

従来の経営論、組織論：儲かる／儲からない

別の物差し必要。基本－“働く”：生きていること、打ち込むことの幸せ

→どんな生き方

【次回】

3月31日（土）10～12時、丸ビル10F 一ツ橋会議室

内容：民俗学とは何か？→メンバー間での共通の認識を持つ。

宿題：「民俗学がわかる」（AERA MOOK）を読んで纏める（担当：平井、松山）。